

あじろ まさたか
網代 正孝

NPO法人
「日本フィリピンボランティア協会」会長



私の視点

日本は2004年、フィリピンとの間で「経済連携協定(EPA)」に大筋で合意し、介護士を受け入れることになった。しかし、受け入れの条件、特に人数などをめぐって両国間の要望に開きがあり、交渉は進展していない。

日本側が提示している条件は、①フィリピンからの介護士候補者に半年間の日本語教育を行う②その後、介護士の専門学校(通常2年)を卒業するか4年間の

現場実務を経て、日本での介護の資格を取得させる③資格取得者は3年ごとの更新で日本に滞在し続けることができるなど。受け入れ人数の具体的数字は挙げられていないが、100人とも200人ともされる。

この条件はフィリピン人にはハードルが高く、受け入れ規模も少なすぎるのではないか。

現場実務を経て、日本での介護の資格を取得させる③資格取得者は3年ごとの更新で日本に滞在し続けることができるなど。受け入れ人数の具体的数字は挙げられていないが、100人とも200人ともされる。

この傾向は、今後ますます深刻化することが予想される。高齢化が進む日本は、好むと好まざるにかかわらず、相当な規模で外国からの人材の力を借りざるを得ないだろう。

高年齢者にかかわる様々な問題を抱え、フィリピン側は子供の教育や福祉、貧困問題などに直面している。これらの課題を連結させ、解決に向けてうまく相互補完ができれば、信頼をベースに、従来とは異なる日比関係が築けるだろう。

10年前から日比の福祉交流を実践してきたが、世間でいわれているような「日本語の会話能力」の問題はさほど大きな支障にはなっていない。むしろ、受け入れ施設側がいかにフィリピン人を支えていくかの、受け皿のあり方が重要である。官の発想だけでなく、現場を担う民の力をうまく引き出すことができれば、受け入れ体制づくりに向けた動きが進展すると思う。

◆介護士受け入れ 日比 補完する視点を

現在、日本の介護施設は大都市圏内では人手不足がマンネリ化している。東京都の特別養護老人ホームの多くは常に2割を超す欠員の補充に苦慮している。有料老人ホームでは、ヘルパーの引き抜きや介護士不足のため入居者が定員に満た

り、その能力は高く評価されている。日本は、優秀なフィリピン人ヘルパーを受け入れの「体制づくり」を積極的に進める必要がある。

私は、介護要員が不足するからフィリピンから受け入れるという発想ではなく、日比の弱点を相互に補い合う支援事業としてとらえるべきだと思う。日本は

受け入れる交渉は今後も継続するにしても、現在日本が必要な人材は「介護士を補助する若い力」だ。この介護補助員を数万人規模でフィリピンで養成し、選考し、日本国内できちんとした受け入れ体制づくりを急ぐよう、私は提唱したい。

私が所属するNPOは、

介護補助員は、例えば2年ごとに勤務実績に応じて

作ることに力を貸す。日本の中小企業の振興と熟年者の再雇用を兼ねてフィリピン各地に企業が進出できれば、定年後の団塊世代の生きがいにもなるし、フィリピンの貧困解消の一助にもなる。両国にとって都合が良いはずだ。本音レベルの取り組みが必要だ。

私が所属するNPOは、

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メール tsjien@asahi.com 一重投稿、採否の問い合わせは迅速ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メール tsjien@asahi.com 一重投稿、採否の問い合わせは迅速ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

のため入居者が定員に満た

えらるべきだと思う。日本は

私が所属するNPOは、

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メール tsjien@asahi.com 一重投稿、採否の問い合わせは迅速ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メール tsjien@asahi.com 一重投稿、採否の問い合わせは迅速ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。